

テンポ～Temp0で20TC!

2008年10月04日 かながわ OL 大会 (横浜・うみの公園)



JOAトレイルO
委員会
こやま たらう

このところ OL ギョーカイでよく耳にする「テンポ」。数年の内にトレイルO世界選手権種目となることが確実の新形態、「Temp0」。本邦初のトライアルが快晴の横浜「うみの公園」で開催。

トレイルOのスプリント競技

既に本誌の2008年2月号および6月号で紹介したように、テンポ (Temp0) という競技は、メディア・フレンドリーな効果を狙って誕生した文字どおり「テンポのある」トレイルOの新しいカタチだ。

わずか数百mのコース上にはDC (デジション・ポイント) が5~6か所あり、それぞれのDPではいくつかのTC (タイム・コントロール) をこなす。合計20か所前後のタイム・コントロールの総合計時間で成績を競う。いわばトレイルOのスプリント・レースといえる。

さらなる特色は、各DPでは同じフラッグ群を使って異なる複数課題をこなすこと。繰り返すごとにやさしなって来そうだが、実際はそうはならない。

次に、同じフラッグが、違う位置説明で何度も課題に登場すること。同一フラッグが繰り返し出てくると、頭の中は確実に混乱してくる。

第三には、「正解なし」のZ回答があること。全てが疑心暗鬼の世界となる。

4DP × 5TC = 20TC

さて今回のTemp0ではDPは4か所で、各DPごとに、それぞれ5つのTCがセットされた。つまり、競技者は合計20のTCに挑戦したわけだ。



スタートはエレベータで

スタート地点は公園管理棟のエレベータ3階。屋上庭園がDP1番。入り組

んだ植込みを利用した、コントロールを南西方向に「縦」に見る5問。解答が記録されると次から次へと矢継ぎ早に課題の地図が示される。課題フラッグの位置が5問中4問まで「南西側」、「南西の角」と、同じ方向で攻めたのは妙。また1問目からZが現れ、このDPでZが3問とは競技者を混乱させる。

動けないまま中間点の判断

50mほど離れてDP2番。ここは1番とはぐっと雰囲気が変わり、尾根上からよく整備された松林の中、30mほど先に横に広がる岩石群を見下ろすコントロール。「～の間」を問う課題が3問あり、パーチャカルな中間点を、動かずに判断するのは難しい。「岩と藪の間」と「岩と岩の間」で同じフラッグが登場。

不描の岩、見えない岩

DP3番は岩石群を4~10mの目前に眺めての5問。地図には拾っていない1m未満の岩の識別、斜めに見ると重なって一つの岩に見えてしまう錯覚などを旨く利用した課題。DPから見えない岩がZの課題に使用されていたのが気になったが、その是非については議論が必要だろう。迷いを反映して低正解率。

Zフラッグの場所が視認できない場合に、コントロールとして使用できるか、出来ないか…皆さんのご意見を。

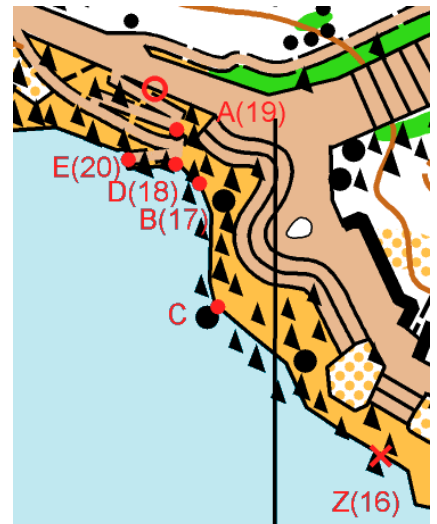
あ、満潮でコントロールが・・・

さてラストは「これぞヨコハマ・・・」、なんとなんと海に面したDP4番 (写真参照)。水際の岩石群、満潮で水中に没した小道、「3.1湖」のシンボルで表された海面など楽しいコントロールであったが、反面、地図の熟読と現地比較のスキルが強く要求された。

このDPに限らず、課題を見せてゆく順序など、競技者の心理をついた数々の工夫がこらされていた。(コース・プランナーはワンダラスの茅野耕治)



#4 世界初?のコントロール



16	A-E	▲		♂	Z
17	A-E	☹		♂	B
18	A-E	↗	◁	♀	D
19	A-E	▲		♀	A
20	A-E	↘		⊥	E

成績はポイントと所要時間

さてさてTemp0らしく全体の競技は1時間足らずで終了した。最終的に13人がチャレンジした成績は次のとおり。(満点 = 20p)

田中 徹 (京葉 OLC)	16p	445 秒
山口拓也 (札幌農)	14p	663 秒
小泉辰喜 (東京 OLC)	13p	631 秒
中尾吉男 (杏友会)	13p	687 秒
児玉 拓 (多摩 OL)	13p	772 秒
鈴木則弘 (多摩 OL)	13p	787 秒
松橋徳敏 (つるまい)	13p	882 秒
大久保裕介 (ES 関東)	11p	736 秒
高橋 厚 (多摩 OL)	11p	1039 秒
吉村年史 (京葉 OLC)	10p	803 秒
木村治雄 (人間 OLC)	10p	850 秒
阿天坊裕 (港南 OLC)	8p	1170 秒
有泉幸彦	7p	1051 秒

*所要時間のみで得点は対象としない国がほとんどだが、得点カウントについての皆様のご意見を拝聴したい。

下記のホームページで、TCごとの地図、正解表を見ることが出来る。

<http://www.o-kanagawa.com/>

初トライアル開催にご尽力いただいた関係者の皆さんに感謝いたします。(こやま たらう)